

ツツイキバナガミズギワゴミムシ *Bembidion tsutsui* (S.Uéno)

【選定理由】

海浜性の種で、満潮時に海中に埋没する潮間帯を生息地とする。本県の生息地は現在知られる本州唯一の分布地となっているが、生息域は極めて狭く、また不安定であり、絶滅の危険性がきわめて高い。

【形態】

体長 3.5mm 内外。全身黒色でやや赤みを帯びる。頭部は大きく、大顎は発達するが、歯を欠く。前胸背前角はよく突出し、基部は強く収縮する。後翅は退化し、肩部は丸まる。

【分布の概要】

【県内の分布】

知多市新舞子、および豊川河口の 2 カ所のみしか知られていない。

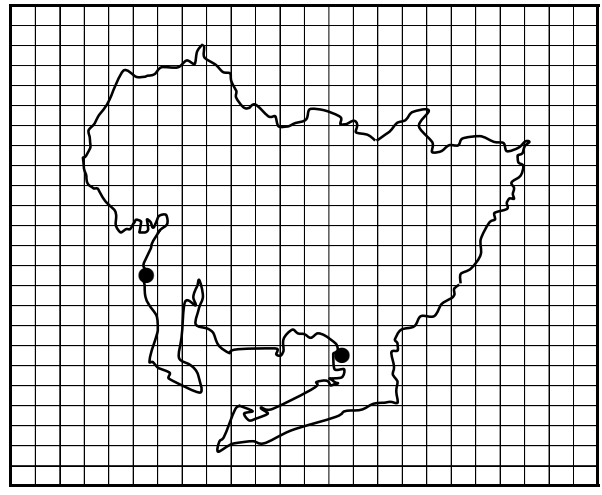
【国内の分布】

愛知県以外では、屋久島から奄美大島にかけて分布する。九州、四国では未発見。2000 年代に入って静岡県内からも発見された。

【世界の分布】

日本の特産種である。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

豊川河口近くの潮間帯。生息地環境は、護岸工事により敷き詰められた岩の上に花崗岩の主成分である石英、長石、雲母よりなる砂が堆積した場所である。本種は、水没する満潮時には岩の窪みや付着したカキなど貝類の隙間に身を潜め、干潮になり、露出した岩や砂が乾いてくるとその表面を徘徊し、餌をさがす。昼間も活動するが、夜間により活発である。なお、屋久島や奄美大島での生息地は珊瑚礁である。

【現在の生息状況／減少の要因】

新舞子海岸の生息地は 1965 年に発見されたが、その後の護岸工事のため絶滅した。豊川河口の生息地は 1994 年に確認された。生息地は地形的条件から幸運にもヘドロの堆積を免れたごく狭い地域に限られ、非常に危険な状態である。減少の要因としては、潮間帯の汚染と自然海岸の減少をあげることができる。しかしながら、本種の豊川河口の生息地は自然海岸ではなく、伊勢湾台風後に人工的に護岸された地域であることから、ヘドロなどの堆積による潮間帯の汚染による影響がより深刻であると考えられる。

【保全上の留意点】

生息地付近は、常に護岸工事などが頻繁に行われる危険性にさらされている。数年前、生息地の約半分にあたる面積について護岸補強のための大規模な工事が行われたことがあるが、幸いにも工事後生息環境はほぼ元通りに復元され、工事後に本種の生息回復が確認された。このことから、配慮ある施策をとれば本種の生息地保全は可能である。しかしながら、本種の生息地となる河口部の環境維持には、上流部も含めた河川の浄化が必要である。

【特記事項】

現在の県内の生息地は 1 カ所のみ。

【関連文献】

森田誠司・白井勝巳・蟹江 昇・長谷川道明, 1996. 愛知県におけるキバナガミズギワゴミムシ類の採集記録. 豊橋市自然史博研報, (6): 27-30.

佐藤正孝, 1965. 海に住む昆虫. 井波一雄編, 名古屋の自然: 166. 六月社, 大阪.

岩崎 博・蟹江 昇, 1990. 愛知県のオサムシ類. 愛知県の昆虫, (上): 309-338. 愛知県.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)